第 2016-01 号

恵みと真理のニュース

2016 年 1 月の一次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］　私達が求めるものと考えるものより 溢れるほど与えて下さる神様の恵みに感謝します

ハレルヤ！　私を救ってくださり豊かな救いの恵みを与えてくださった神様に感謝と賛美を捧げます。
イエス様を救い主として信じ受け入れたことが人生の中で楽しくて幸せだったことがイエス様を愛し支えることだと証します。
過去、イエス様を知らなくて生きた時にはいつもうっとうしくて光が見えないくらい中でさ迷いました。しかし、イエス様を知って共に生きながら大きい苦難と艱難があっても少しも怖れなくていつも明るい心と顔で生きるようになりました。神様に祈たら答えられる楽しむを享受します。
神様を信じない家庭で生まれ大人になるまで神様を知らなく自分の考えで生きました。そうするうちに就職した会社で初めてイエス様とキリスト教の信仰を知るようになりました。会社の社長は篤実なクリスチャンでした。社内で礼拝捧げる所があって月曜日ことに職員がみんな集まって礼拝をしてから一週間の業務を始めました。私は礼拝の真の意味と喜びを知らなくて仕方なく職員礼拝に参席しました。初めは会社で行なう事だから義務的に礼拝を捧げましたが、続けて礼拝に参席すると神様を知るようになりがましまもなく、会社を辞めました。
今まで職員礼拝に参席して知らないうちに神様に対する信仰が大きくなり、救いの恵みと真理を知るようになったから会社を辞めても家の近くにある教会を通い続けて礼拝を捧げました。そして、結婚しました。旦那は熱心に偶像崇拝をする家庭の息子でした。私一人で教会に通い熱心に礼拝中心生活をしました。しかし、時間が経って信仰がなかなか成長しませんでした。いつも神霊が枯れていました。そうするうちに引越しして区域長の一人を知るようになり、その方に導かれ恵みと真理教会のスワン聖殿で出席するようになりました。
恵みと真理教会に来て初めて礼拝で当会長牧師の説教で大きい恵みと感動を受けました。御言葉の恵みを愛し求め休まずに参席しました。以前は義務感で主日だけ教会に行った私が平日も聖書を読み全ての礼拝も参席して説教を聴くのが楽しくなりました。礼拝の時間に一節も逃さないように手帳に書き説教を聴きました。それと共に、御言葉の通りに行なうように努力しました。
日々信仰が成長するのを感じて熱心に信仰生活する私に神様はときことに御言葉と聖霊の力を与えて下さり神霊な慰めを慰めを与えてくださいました。信仰の胆力が出来て神様の祈りで親密になり大きいこと小さいこと神様の祈りに答えられました。“私は、神様と離れては生きられません。”と信仰と愛の告白しました。旦那が救われるように祈りましたそれが一番祈り課題でした。旦那の救いのため熱心に祈りながら伝道しました。不可能な事のように見えましたが、ある日から、硬く 閉じていた旦那の心が徐々に開かれついに教会に来て決信するまで至りました。驚くな聖霊の働きでした。主日は出勤する旦那はまず教会に行って礼拝を捧げてから会社に向かいました。
お酒とタバコを楽しんでいた旦那は礼拝に熱心に参席し恵みを受けて酒とタバコと離れまもなく完全に止めました。区域礼拝も参席して暑理執事の任命を受け、男性奉仕連合会で教会と聖徒を支え奉仕するまで信仰が成長しました。私が希望の中で信じて祈ったとおり家族が主の中で幸せな生活をするようになりました。
私の事業を初めヤンジュで引越しました。ヤンジュ聖殿で初めて出席した時、私の夫婦はここで神様が私達をここまで導いた神様の恵みと摂理に感謝します。受けた恵みについてもっと多くの神霊なことで忠誠して献身するように大きい祝福を与えるためここまで導いてくださったのです。奉仕する人々が足りなくて旦那は区域長として区域を支え男性奉仕連合会で礼拝と案内と車奉仕をしています。私は区域長と教師で聖徒と隣り人と学生達を支えまた女性奉仕連合会で聖殿がきれいになるため奉仕するようになりました。多くの事でも不平しなくてむしろ感謝する心で奉仕する私達の夫婦に神様は按手執事と首区域長と職分を下さいました。私達を愛して尊い職分を与えてくださった神様に感謝して５タレントと2タレントを受けて褒められた僕のように最善を尽くして職分を担えるように祈ります。
私達が礼拝と教会中心で生活をすると神様は子供達にもきれいな信仰を与えて下さり霊肉と共によく育てるように見守ってくださいました。子供達は教会学校の児童部と中高等部で伴奏者で奉仕して私には大きい喜びとやりがいを与えてくださいました。神様の恵みに感謝して大学を入学する息子のため祈ったら神様は息子が願っていたソウルにある大学に入学するように導いてくださいました。また、大学を卒業して軍入隊する長男のため祈ったら医務隊に入って医務兵として働くように導いてくださいました。もっと感謝する事は医務隊の中にある教会で自由に信仰生活が出来、私達の家から一時間もかからない部隊なので家族が主日礼拝と奉仕を終えてから息子の面会にも行く事が出来ます。
あなたの子らは皆、主について教えを受け／あなたの子らには平和が豊かにある。（イザヤ54：13）
「そこで、わたしのこれらの言葉を聞いて行う者は皆、岩の上に自分の家を建てた賢い人に似ている。雨が降り、川があふれ、風が吹いてその家を襲っても、倒れなかった。岩を土台としていたからである。（マタイの福音書　7：24,25）ハレルヤ！！
私の夫婦の希望は私の全ての家族が相変わらず熱心に奉仕し信仰生活をするように、親戚の全てがイエス様を受け入れ主の中で喜びと満足と幸せを享受することです。“「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたも家族も救われます。」”と御言葉のように切ない心で祈ることを答えてくださることを信じます。
私達が求めことや考えることより溢れるほど与えて下さる神様の恵みに感謝し全ての栄光を神様に捧げます。新年には私の夫婦が神様の前でもっと真面目で忠誠して教会の目標が成し遂げるように用いられるように願い祈ります。

［信仰コラム］　イエス様を眺めながら信仰の競走をしましょう

”...いっさいの重荷と、からみつく罪とをかなぐり捨てて、わたしたちの参加すべき競走を、耐え忍んで走りぬこうではないか。信仰の導き手であり、またその完成者であるイエスを仰ぎ見つつ...”（ヘブライ１２：１、２）

救いに至らせる信仰は全的にイエス様によることでありあます。イエス様による信仰を持つためには”信仰の根元であり完成者である”イエス様に注目しなければなりません。
まず、私達が注目しなければならないイエス様について調べてみましょう。
第一、十字架を担われたイエス様を眺めてください。イエス様が十字架の苦難を受け血潮を流られたのは私達の罪と呪い、疾病を購うためでした。心を開いて十字架につけられたイエス様を眺める人にはイエスキリストによる信仰ができるようになります。第二、墓で復活なさったイエス様を眺めてください。復活なされたイエス様を眺める人には将来に経験する復活に対する信仰が心霊を占めるようになります。すると、現実に当面した問題が墓のように重くて苦しくても挫折しません。老いと死を過剰に嫌悪したり恐れないようになります。第三、神様の右の座に座しておられるイエス様を眺めてください。復活なさって昇天なさり神様の右の座に座したイエス様を眺めると驚くべきな慰めと激励を得ます。第四、再臨なさるイエス様を眺めてください。再臨なさるイエス様に注目すると聖なる行いと敬虔でその日を思慕しながら生きるようになります。主が私達を主の統治に参加させてくださる光栄を考えるようになり、
その日に対する期待感で充満になります。
次は、イエスキリストを注目することで神霊な信仰を得た人はその時から信仰の競走するということを見てみましょう。この競走は順位を付けない競走です。落伍せずに最終の目標地点まで走ればいいです。途中に倒れないためには重いことを下ろして絡められることを処理しなければなりません。第一、我執を捨てるべきです。教会は様々な階層と性格の人々が集まる所であるので不便で不愉快な場合が起きてしまいます。そのような時、我執が強い人は対人忌避症に陥ってしまいます。我執を捨てる最善の方法は物事を神様の中心に考えて行い、教会中心に考えて決定することです。第二、執着を捨てるべきです。この世の地位と名誉、権勢と財物に執着して恋々すると、それらは信仰の競走において重い荷になり絡めることになります。社交活動、趣味生活、娯楽等、それに心が片寄ってしまい信仰生活の前進を困難にし障害になるとしたらそれは捨てるべきの執着に属します。第三、この世の心配を神様に任せることで脱するべきです。”何事も思い煩ってはならない。ただ、事ごとに、感謝をもって祈と願いとをささげ、あなたがたの求めるところを神に申し上げるがよい。そうすれば、人知ではとうてい測り知ることのできない神の平安が、あなたがたの心と思いとを、キリスト.イエスにあって守るであろう。”と記録されたお言葉通りに実践してください。第四、苦しい記憶を捨てるべきです。苦しい記憶を心の中に貯蔵しておくと心がひしげられて重くなり信仰の競走がうまくできなくなります。
失敗した経験、抑欝な事、恥をかいた事はイエス様に告げてお許しと癒しを受け入れるようにすべきです。
第五、恨んで不評する癖を捨てるべきです。
最後に、”わたしたちの参加すべき競走を、耐え忍んで走りぬこうではないか”というお言葉を調べてみましょう。
イエス様は目前にある楽しみのために恥と蔑視の十字架を耐え忍びなさいました。目前の楽しみとは復活なされて神様の右の座に座すことだけではなく数多くの罪人が救われることを意味します。私達も信仰の競走をした後に享受する楽しみを考えながら耐え忍んで競走しなければなりません。
イエス様に注目してください。そうすると、購いと復活と限りのない慰め、治める光栄と報いと主の楽しみに参加することに対する信仰を得るようになるでしょう。そして、その信仰が完全に体験される日を迎えるでしょう。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

妬みを治める秘訣

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

飛行機の操縦桿、船のキ、自動車の運転台の役目と機能がどんなに重要なのかを分からない人はいないだろう。 心は運転台のように私たちの生を牛耳る役目と機能をします。 聖書には“油断することなく、あなたの心を守れ、命の泉は、これから流れ出るからである。”(箴言, 4:23) としました。 今日は ″妬みを治める秘訣″をよく見ます。

先ずに、三つの種類の妬みに対して調べます。

第一は、神様の妬みがあります。

申命記 4 章 24 節に “あなたの神、主は焼きつくす火、ねたむ神である” と言いました。神様の妬みとは偽りされたはく仕えて偶像の前にお辞儀をする人間の分別ないと腐敗に対する嘆きと震怒の感情だと言えます。 神様がイスラエル民に下さった戒めの中に先ずされる戒めがあります。 “あなたはわたしのほかに、なにものをも神としてはならない。 あなたは自分のために、刻んだ像を造ってはならない。上は天にあるもの、下は地にあるもの、また地の下の水のなかにあるものの、どんな形をも造ってはならない。 それにひれ伏してはならない。それに仕えてはならない。あなたの神、主であるわたしは、ねたむ神であるから、わたしを憎むものは、父の罪を子に報いて、三、四代に及ぼし、わたしを愛し、わたしの戒めを守るものには、恵みを施して、千代に至るであろう。”(出エジプト記, 20:3-6).

二番目は、神様による人の妬みがあります。

エジプトから離れ出たイスラエル民がシッディムにとどまっている時でした。 モアブ王バルラックが自分の神々に祭祀を差し上げる行事にイスラエル男たちを招待しました。 イスラエル男たちは彼らの祭祀の食べ物を食べて偶像にお辞儀をしました。 それゆえに神様が震怒なさってモセに命じて民の頭領を処刑させました。そして神様の懲罰で民の中に染病が発病して人々が死にました。 そんな中にイスラエル族長の中で一りがミデアン族属の頭領の娘を連れて来ました。 これを見た祭祀長アロンの孫ビヌハスが彼らを突いて殺しました。 神様がモセに “「祭司アロンの子なるエレアザルの子ピネハスは自分のことのように、わたしの憤激をイスラエルの人々のうちに表わし、わたしの怒りをそのうちから取り去ったので、わたしは憤激して、イスラエルの人々を滅ぼすことをしなかった。”(民数記, 25:11)とおっしゃいました。 このような妬みは神様の公義を満足させてイスラエルの聖なる回復しようとする信仰的な熱心で認められました。

三番目は、人間の堕落した本性から出る妬みがあります。

妬みは自分を他人と度を越して比べる人にできることがあります。 比較優越感に酔えば人を馬鹿にするようになります。 しかし比較劣等感を持つようになる時は嫉妬心が生ずるようになります。

次は、妬みがもたらす悪い結果に対してよく見ます。

第一、妬みは天倫を破る事も何ともなく行なわせます。

その事例が創世記 4 章に記録されています。人類最初の殺人事件です。 アダムとエバがカインとアベルを生みました。 カインとアベルは成長してそれぞれ神様にお供えを差し上げました。 神様がアベルとそのお供えは嬉しく受け入れたがカインとそのお供えは受け入れなかったです。 アベルは神様が啓示なさったあがないの恵みと真理を信仰で神様に進みました。ところでカインは神様の啓示なさったお言葉を無視して自分の主観どおりお供えを差し上げました。 カインは神様がアベルのお供えだけ受け入れることを見てアベルに対する嫉妬心が火のように燃えて結局アベルを殺しました。

第二、妬みは裏切りと反逆をはからせます。

その事例が聖書の民数記 16 章に記録されています。 ゴラの反逆事件です。 エジプトで奴隷生活をしたイスラエル民が神様が送られたリーダーモセの導きの下ガナアンを向けて行進しました。 そうする中にモセとアロンの導きに挑戦して反抗する事件が発生しました。 この反逆を主導した人物はゴラを含めたタダンとアビラムとオンであったし 250 人の族長がこれらを追従しました。 モセはゴラと 250 人の追従者にそれぞれ香炉を取りなさいと言いました。神様の公義の判決を受けるためにモセとアロンまたゴラ一党が聖幕の前に立ちました。 ゴラが先導しようと思う時神様がモセとアロンにその所を離れ発ちなさいとおっしゃいました。モセが人々と一緒にその所を 離れ発つとゴラとタダンとアビラムの家族が立っていた地が割れて人々と品物が地の中に落ちて入りました。その後地がもとの通りに閉まりました。 まもなくで神様の審判なさる火が出て 聖幕の門の前で焚香した 250 人を燃えました。 こんな悲劇は嫉妬心を治めることができなかった結果でした。

第三、妬みは被害妄想に落ちさせて判断を誤らせます。

その事例がイスラエルの初代の王サウルです。ダビデはゴリアテを殺したのみならずブルレセッとのけんかでいつも勝ちました。 ダビデがけんかで勝って帰って来る時イスラエルすべての城邑で女人が歌と踊って “サウルの殺した者は千 千であり、ダビデは万 万だ。” と歓呼しました。 サウル王がこれをきいて非常に不快でした。 妬みの感情が彼の心を満たしたからです。 サウル王が思うのを ‘これからダビデが得ることが王国の外に何がもっとあるか?’ としました。 サウル王はダビデが自分の王権を奪おうと思うと判断したがそれは誤った判断でした。 ダビデに対する妬みが彼の眼力を奪ったのです。 サウル王は自分の心に燃え始めた妬みを治めることができずにダビデを殺そうと決心しました。 そしてダビデは逃避の道に上がるようになりました。 サウル王はダビデに対する妬みをついに治めることができなかったしそれによって滅門を自ら招いてしまいました。

第四、妬みは心の平和と喜びを奪います。

箴言 14 章 30 節に記録されるのを “穏やかな心は身の命である、しかし興奮は骨を腐らせる。” と言いました。

五番目、妬みは信仰生活に損失をもたらします。

航海する船が暗礁にぶつかれば破損されて座礁するように妬みは信仰を毀損して沈没させます。妬みを捨てなければ正常な信仰成長ができなくなります。

終りに、妬みを治める方法をよく見ます。

妬みは男女老幼を選り分けないし貧富貴賤を選り分けなくてすべての人の心にできます。 妬みを治めて心を守ることはあまり容易い事ではないです。 しかし決心して行う者には発展と進歩があるものと決まっています。

第一、自分よりましとか良いとかよくできることを見れば妬みではなく学ぶ点が何やら思わなければなりません。

第二、自分を他人と比べて判断せずに神様との関係で判断しなければなりません。 イエス様がダラント比喩をおっしゃいました。 主人が三人の名名のしもべに五つダラント、二つのダラント、一ダラントを任せて遠い道を発ちました。 五つダラントと二つのダラント引き受けたしもべはまっすぐに行って商売しました。一ダラント引き受けた人はそのお金を地に葬りました。 長年の後に主人が帰って来てしもべと計算をしました。 五つダラントと二つのダラント受けた人は商売して得た収益を合わせてそれぞれ受けたことの倍を持って来て主人に差し上げました。 主人はしもべが仕事して得た利金の分量で評価しないで同じ内容の誉めました。 ″主人は彼に言った、『良い忠実な僕よ、よくやった。あなたはわずかなものに忠実であったから、多くのものを管理させよう。主人と一緒に喜んでくれ』二タラントの者も進み出て言った、『ご主人様、あなたはわたしに二タラントをお預けになりましたが、ごらんのとおり、ほかに二タラントをもうけました』。主人は彼に言った、『良い忠実な僕よ、よくやった。あなたはわずかなものに忠実であったから、多くのものを管理させよう。主人と一緒に喜んでくれ』 ″(マタイによる福音書 25:21)と言いました。 二つのダラント受けたしもべは他のしもべと比べないで主人が自分を信仰して財産を任せたという事実に感激して主人を嬉しくして差し上げようと最善をつくしたのです。 彼には比較優越感もなかったし比較劣等感もなかったです。

第三、最高の価値をイエス様が分かる知識とイエス様のために働くことに置かなければなりません。

使徒パウロは自分が持った価値観をこんなに打ち明けました。

″しかし、わたしにとって益であったこれらのものを、キリストのゆえに損と思うようになった。わたしは、更に進んで、わたしの主キリスト・イエスを知る知識の絶大な価値のゆえに、いっさいのものを損と思っている。キリストのゆえに、わたしはすべてを失ったが、それらのものを、ふん土のように思っている。それは、わたしがキリストを得るためであり、律法による自分の義ではなく、キリストを信じる信仰による義、すなわち、信仰に基く神からの義を受けて、キリストのうちに自分を見いだすようになるためである ″(ピリピ人への手紙,3:7-9) と言いました。

第四、自分が神様の至極な愛の中にいるのをいつも意識しなければなりません。

皆さんがイエス様のみ救世主に信じて仕えたらこれは神様の至極な愛の中にあるという証拠です。 そして皆さんが神様の愛の中にあるというのを意識する卓越な方法は神様に対する愛を積極的に表現しながら暮すのです。箴言 8 章 17 節に “わたしは、わたしを愛する者を愛する、わたしをせつに求める者は、わたしに出会う。” と言いました。

人類最初の殺人は嫉妬心から始まりました。サタンの攻撃方法は変わりがないです。 私たち心に妬みが根付くようにけしかけます。 人間社会は今日も嫉妬心によって不幸な事件が絶えず発生しています。 聖徒の皆さんは妬みが侵透するとか根付くことができないように心を治めて安定した心で生きて行くように願いします。